

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 71 2009年1月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

平成二十一年年頭に当たって

代表理事 坂 弘毅

健康な森林、即ち「美林」 牛久自然観察の森

明けましておめでとございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えになったことと拝察いたします。昨年は、不況という激動の嵐が吹き荒れ、先が見えぬまま新しい年の幕開けとなりました。平成二十一年は経済の先行きが尚不透明で、社会情勢は依然として混乱の極みにあると思われまます。

さて、うしく里山の会の昨年一年を振り返ってみますと、会員の皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。平成二十一年のトピックスは、

- 一・市内各地での里山保全活動への協働参加で市民、行政との連携深まる
- 二・地球温暖化防止、「一村一品知恵の環づくり」茨城県大会で特別賞受賞
- 三・地域農業者との連携で全体事業「うしく里山秋まつり」初開催
- 四・全体事業「みどりの保全区エゴアップ作戦」当初予定まもなく達成
- 五・特別事業「巨木リサーチ事業資料展」成果発表の資料展にぎわう
- 六・全体事業「里山セミナー」各季節実施に会員多数参加する
- 七・各自主事業、メンバー他の一般参加者も多く充実の年となる

八・景観保全と水辺環境の保護へアヤマ園第二期スタート

九・牛久自然観察の森ソフト充実で来園者増加(年間五万人超)

十・うしく里山の会中期計画検討会スタート

(平成二十一年は会設立から五周年、観察の森開設から二〇周年という節目を迎え、里山の会のあべき姿を検討するための検討会をスタートしました。)

このように多くの実績を残してまいりました。

二〇年度としては残り三ヶ月ありますが、残されたテーマをきちんと消化して新年度に引き継ぎたいと思えます。

地球温暖化防止のため「健康な森林づくり」が一層注目されるようになりました。

うしく里山の会では定款に定められているとおり、「環境の保全を図る活動」が会の最大のミッションであることを念頭に置いて活動を続けて参りましたが、今後は更に地域との連携協働を重視して地域貢献をして参りたいと考えております。今後とも皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト 活動報告



里山自然観察隊事業報告

本田 寛

第五回植物観察会、雑木林の樹木の観察・調査

十二月十三日（土）、今年度最後となる「植物観察会」を実施。天気は晴れ温かく絶好の観察日和でした。参加者はプロジェクトメンバー八名。場所は五月と八月に調査した同じ雑木林一カ所（下根の雑木林とコジュケイの林）。落葉樹を中心に高木と低木に分け種類、樹高、太さ及び本数を調査。高木については十メートル四方の区画内を、低木については五メートル四方の区画内の全数について調査。更に、アズマネザサについては一メートル四方区画内の全本数を数えました。この調査方法で下根の雑木林とコジュケイの林でそれぞれ二区画を調査しました。

「下根の雑木林」の調査区画内では、コナラ、クヌギ、ヤマザクラの三種の高木を確認、低木としてはガマズミ、モミジイチゴ、サワフタギ、コマユミ、ゴンズイ等約二十種が確認できました。一方、多くの枯れ草の中で、トウモロコシの実のような形をしたマムシグサの果実や赤い小さな実を幾つも付けたサルトリイバラの美しさが印象的でした。

「コジュケイの林」の調査区画内では、高木としてコナラ、クヌギ、イヌザクラ、ヤマボウシ、エノキ、ゴンズイ、コブシの九種を、低木として



牛久自然観察の森コジュケイの林 08/12/13 本田

ウグイスカグラ、コマユミ、ニシキギ等、六種類を確認。コマユミは翼のないニシキギ科の落葉低木で、小さな橙赤色の二個の実を付けていました。ニシキギは枝にコルク質の翼が上下交互に直角についていて、翼の有無でコマユミとは区別できます。ヤマウグイスカグラの一株が未だ緑色の葉を付けていました。この葉は対生し長径二センチ、短径一センチの広楕円形で細かい毛が全体に生えています。「下根の雑木林」は、下草が腰位ま

で密集している所があり巻尺で調査区画を作るのに手間がかかりましたが、「コジユケイの林」は下草刈りがなされ良く管理されていたため調査は半分の時間で済みました。

今回二カ所の雑木林を調査。元々二カ所とも薪炭、堆肥供給の山林として利用されてきたと思われませんが、「コジユケイの林」では高木の種類が「下根の林」の約二倍認められ、低木は約二分の一でした。人手の有無により植物相に違いが生じるのでしょうか。いろいろ疑問が湧いてきます。それにしても、この季節、雑木林はコナラ、クヌギ等が落葉し、地表は落ち葉の絨毯で覆われ、天空が見通せて快い開放感の中で楽しく調査活動を終えることができました。



巨木リサーチ事業報告

坂根 輝一

鹿島神宮・息栖神社・神善寺に巨木を訪ねて

十一月二十二日、研修参加者十二名は自家用車三台に分乗し、鹿島神宮にむかう。遠出である。小野川・新利根川ぞいに、そして潮来をへて北浦をまたぐ走行距離五十キロ余り。田から田へと続く平坦な風景の中を、ほぼ一時間の行程である。

鹿島神宮の森は、冬晴れの空にむくむくむくと湧き立つようである。森があんぐりと口をあけているような鳥居をくぐり、一行は森に飲み込まれ

る。右手からタブの巨樹がV字に張り出してきて頭上を覆う。見事な双幹である。と見えたが片側はスタジイだと云う。突出し絡み合う根が互いに融合し渾然としている。楼門をくぐるとすぐ社殿である。二郎杉と称する巨大杉が聳える。本殿の背後には神木杉が天を突く。苔むした松皮葺の屋根の優美な反りが、杉の幹の直線と合い和して、荘厳な響きを奏でている。皆で拜殿に参拝する。

この神宮の森は、照葉樹林の北限であり、極相林といって森が到達する極限の状態にある、と案内板にある。スギ・ヒノキ・スタジイ・タブ・ヒサカキ・モミなど、神代の時を伝える樹叢が今に受け継がれている。

巨大杉が居並ぶ参道を更に辿る。千年の時を抱く森の静寂が降り注ぐ。時が止まりざわめく光。



鹿島神宮御神木のスギ
08/11/22 渡辺

この森に踏み入るとは、過去との遭遇、いにしえへの回帰を観念することなのか。行き着くとそこは奥宮である。道はそこで突然途切れ、鬱蒼とした茂みに遮られる。折り返へし帰路を歩めば、巨

大杉の樹列が織り成す単純ともいえる尖曲形の空間が、我々一行を再び煩雑な世へと送り出す。駐車場の角に取り残されたようにある樹齢八百年の椎の根元に、幾人かで椎の実を拾う。

息栖神社は利根川の川岸にこんもりとした森を残している。千年に亘る時のなかで育まれた樹叢は水郷の美の一端として江戸時代以降文人墨客が多く訪れたという。今はひっそりとしている。まるで打ち捨てられている様にも見える森は、それ故にこそ、いつそ天然の風情を見せている。

御神木の杉は推定樹齢千年、夫婦杉として対の杉と共に社務所脇に鎮座している。幹に廻す注連縄(シメナワ)は神の在りどころを示しているのだらう。見廻せば、奥に広がる木漏れ日の中の樹木ひとつひとつに林床の草本のそれぞれに、くまなく生命を見、手を加えることなく、折れ伏し芽生え、あるがまゝに保全してきた、いにしえの人々の自然への畏敬の念に、森は包まれて居る。

神栖市波崎の神善寺にタブノキを見る。樹齢千年、樹高十五m、幹周は八mに及ぶ。手を廻せば五人はいる太さである。その樹相は異様である。根は地を這い上がり、幹は大きなこぶを噴き出し、支幹を幾本も立ち上げ、その幾つかは横にねじれ、地に低く左右真横に張り出す。その巾を測れば二九m余り。まるで雷神が降り立ち、そのまま立ちはだかるかの様な姿である。根元を取り巻いている石仏群がこのタブノキに向かい合うように据えられているのもうなずける。



神善寺タブノキ前で記念撮影
08/11/22 戸塚



参詣道をはさんで菩提樹が一本佇んでいる。離れては公孫樹の老木が乳根を噴き出しているのが見られる。いずれも仏寺ならではの存在である。しかしこの寺の境内を覆っているのは、遠くこの地が照葉樹林帯であった痕跡である。民家の軒下がせまる只中であつて、タブを高木層に頂く見事な階層構造の森を現存させている。

近年寺社の営みが厳しく、境内の樹々が切り拓かれ、駐車場や賃貸住宅、幼稚園にその姿を変えている状況を聞くにつれ、今日、眼に残る樹木達の行末はいかにと杞憂がよぎる。



アヤメ受託事業報告

佐藤 輝雄

アヤメ園の一年

十二月、アヤメ園の作業も一段落しました。今年二月から始まった作業は、胴長を着て池に張った氷を割りながらのスイレンの間引き、そしてカチカチに凍った畝からの除草でした。春には肥料を撒き、畝の補修や除草を続け、六・七月に美しい花菖蒲の開花。八月、花が終った頃から株分けのスタート。今年はアヤメ園の大半が三年目の株分け対象となり、全部の株を抜き取り、土の掘返し・畝の作り直しと本当に暑い中、辛い肉体労働の連続になりました。全員、塩を舐めながら頑張りが、十一月始めやつと株分け完了。しかし、除草ができなかったため身の丈ほどに伸びた雑草と、休む間もなく悪戦苦闘の毎日で、除草された草はすぐにリヤカー満杯になり捨て場にも困るほどでした。全員の力で除草も完了、十二月にはまた、整然としたアヤメ園の姿に戻りました。今振り返ると良くぞ大変な年を乗り切ったものです。メンバーも固定されてきました。力強いメンバーを簡単に紹介したいと思います。

責任者のSさん・メンバー全員を厳しくも優しく指導され、お陰で全員プロの作業ができるようになりました。

昆虫博士のKさん・メンバーの中で一番長老ですが精神・肉体年齢とも一番若いと自他共に認め

るところ、今年は「オケラ」もだいぶ集めました。タイムキーパーMさん・女性群を相手に抜群の話し。休憩、作業開始！。Mさんの笛で皆が踊ります。

リヤカーマンことNさん・土木作業で工務店になったり、草の運搬でリヤカーマンになったり、その道では誰もできないプロです。

刈払機のMさん・メンバーの刈払機の使い手の彼の作業は魔法の手です。最近の後輩ができてプロの伝授です。

泥んこまみれのFさん・メンバーの中でも一番泥を恐れず全身泥まみれ、皆の何倍も量をこなします。

市政コンサルタントのFさん・アヤメ園に限らず牛久を取り巻く環境を厳しく監視しています。

新メンバーのHさん・メンバーの中で一番若く(?)軽やかな動き。優しい人柄に皆さんから信頼一番です。

同じく新メンバーのSさん・まじめに黙々と作業を進め大きな戦力と期待 1です。

株分け指導員のIさん・今年の株分けは大変でしたが彼女の素晴らしい指導で無事終わりました。いつもかりん糖の差し入れありがとう。

イラスト上手なKさん・彼女の素晴らしいイラスト、今年初めて知りました。これからも会報を楽しませてくれるでしょう。

いつも元気なYさん・作業の場をいつも和やかにしてくれれます。遠いところ暑さ寒さにめげず自



牛久市観光アヤマ園 08/12/22 坂

転車で飛んでいます。

野草博士のTさん・彼女にはアヤマ園に雑草はありません。全てが野草です。

話題豊富なKさん・誰とでも対話できる話題豊富な人です。時々手づくりの料理が出ます。

最後に私T・韓流スターに勝るいい男(著者の特権で本当のことを書きました)うそ!

今年活躍したアヤマメンバーを簡単に紹介しました。

今年アヤマ園の作業一月・二月休業します。また、三月から素晴らしい開花を願って頑張ります。



そばプロシエント 松本 猛弘

そばうちへ準備完了

そばうちへ準備完了

八月の種蒔きから始まった「そばうち」体験も「刈り取り」「そば実落し」を畑で行い、今回は観察舎前にて「唐箕掛け」を行いました。近在の農家から使わなくなり、もらった「唐箕」という古い農具で、そばの実に混じった枯草やゴミを除く作業です。木製の箱型で中に鉄のハンドルがついて四枚羽があり、それを手で回しながら上部のマスに入れた混じった実を少しずつ中に落とし、風を利用してとばし、重い順に一番口、二番口、そして三番口と選別排出します。二番口のもは再度行います。そうして一番口に出てきた実が、安全簡単でまわす速さには気がつかいましたが、上手に選別され感心しました。

参加の幼稚園児も力いっぱいまわっていました。今は自動式で脱穀機に内装されているようです。

一週間後には製粉され、二十三kgの実から十七kgの粉が出来たのを、次回二・八そばを打つために一回分を、そば粉二四〇g、つなぎ粉(小麦粉)六〇g、うち粉(そば粉)五〇gとし、八カリで計ってそれぞれをビニール袋詰めし必要数を作る「個分け」を行いました。

三ヶ月余でようやく食べられます。十分待ちで

の「そば屋」のものとどうちがうか、とても待ち遠しい思いになりました。



そば刈り入れ 08/11/04 前田



うしく里山の会全体事業連絡

斎藤 孝

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

一月は十七日(土)と十八日(日)の実施となります。冬季期間につき活動時間は午後一時から三時までの二時間となります。元気な森づくりを行いますしよう。

集合場所・時間 いずれもネイチャーセンター一階倉庫前・予約不要(雨天中止/強風時中止)
持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物(長袖、長ズボン)
 刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

問い合わせ先) 029-874-6600 担当:石神)



森で小休止 08/04/20 坂

「平成20年度 里山の会全体事業 「さとやまセミナー報告」

去る十一月三〇日(日) 観察の森レクチャー室において、「NPO法人の会計」と題しまして、講師に税理士の高谷さんをお招きしてさとやまセミナーが開催されました。

ご存知のように、高谷さんは里山の会の会計監査をしていただいておりますが、他にも様々な事業所やNPO法人の監査を行っています。

今回は、NPO法人の会計について、事前のアンケートの質問を交え、とても分かりやすい解説をしていただきました。

参加された会員の皆さんは、最後まで真剣に耳を傾けられていました。

参加者から寄せられた感想には、

- ・ 収益事業を実施する上での情報が得られた
- ・ 会計処理全般に活かせると思った
- ・ 収益事業について理解が得られた
- ・ 不明な点が明確になった
- ・ 他のNPOの収益事業に関する具体例を知りたかった
- ・ 収益事業を開始していることの解釈が出来た良かった
- ・ 会のメンバーが会計を理解出来る時代が来たと実感できた
- ・ もっ少し参加者が多ければ良かったなどがありました。

当日の資料及び当日の詳しい内容をお知りになりたい方は、観察の森渡邊までお知らせください。

なお、次回のさとやまセミナーの予定は、三月二十九日(日) 午前十時~正午です。

内容はまだ未定です。決まり次第お知らせいたします。

なお、「さとやまセミナー」に対するご希望等ありましたらお知らせください。

よろしく願います。

NPO担当 渡邊浩美



牛久自然観察の森報告

斎藤 孝

『観察の森 もっといい場所増やし隊』

第七回参加者募集

一月の活動は江戸崎総合高等学校の学生さんと共同作業です!

牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベンチ作りなどのボランティア活動を月一回の頻度で行う「観察の森 もっといい場所増やし隊」第七回の活動は江戸崎総合高等学校農業クラブの学生さん(高校二年生・三年生)との共同作業です。

観察の森及び隣接するみどりの保全区での下草刈りや間伐作業を行い、昼食に竹ご飯や豚汁をとりながら学生さんと交流します。昼食の準備が

ありますので、参加希望の方は事前にご連絡下さい。昼食の材料は高校の農業クラブの皆さんが持参されますので参加費無料です。ご参加をお待ちしています。

【活動日】一月九日(金)

午前九時三〇分、午後一時(雨天中止)

持ち物)軍手、タオル、長靴、帽子、飲み物

牛久自然観察の森(29-874-6600) (担当/渡邊)

【理事会からのお知らせ】

会費改定に関して

年会費につきまして今年度の通常総会で事前にご説明させていただいた後、定款及び細則に則り理事会にて下記の通り改正いたしました。

平成二十一年度より正会員の個人会員一般の年会費を三五〇〇円、家族会員の一般の年会費を二〇〇〇円とする内容で細則を改正することとしました。

詳しくは今月の会報に同封しました折り込みのご案内をご確認下さい。



今月の古木・希少木 No.21 ニッケイ



和名になつたと思われます。高さ十〜十五mになるクスノキ科の常緑高木です。原産地は中国、沖縄島等とされていますが、江戸時代末期から内地

中国では香木を「桂」と呼んでいますが、ニッケイの木は樹皮が厚いことから、ニッケイ(肉桂)という



葉と果実 08.11.6 戸塚

各地で栽培されてきました。牛久市内では東猫穴町I氏宅と城中町抱撲舎の駐車場に古木が見られます。

小枝は稜角があり、葉は革質、卵状狭長楕円形または狭長楕円形で、先は長くとがり、基部も狭

牛久の風物 落花生ぼっち



畑から掘り起こした落花生を数日間乾燥させ、さらに畑に積み上げて乾燥させます。これが「ぼっち」です。秋から冬にかけての「やさしい光」と「涼しい風」で、ゆっくり乾燥させて仕上げます。「ぼっち」に積んだ落花生は甘味が増し、味が濃くなると言われています。

くなつていて、写真のように三脈が目立ち二本の側脈は先端近くまで達しています。花は五月〜六月新葉のわきから短い花序をだし、淡黄緑色の小さな花をつけます。果実は液果で長さ約1cmの楕円形で、十一月〜十二月に黒紫色に熟します。根皮には特有の芳香をもつた辛味と甘みがあり、芳香性健胃剤や京都の銘菓である八橋煎餅の香料として利用されてきました。年配者は駄菓子屋や夜店でニッケイ水を飲んだり、ニッケイの根皮の乾かしたものをかじつた記憶をお持ちのことと思います。今回も一様に根皮をいただき、ニッケイの芳香性を確認しました。(村尾重信)

1月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
				1 (休園日) (元旦)	2 (休園日)	3 (休園日)
4	5 (休園日)	6	7	8	9	10 雑木林応援隊 9:00炭小屋 里山自然観察隊 9:30NC (会報等原稿〆切)
11 雑木林応援隊 9:00炭小屋	12 (成人の日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋	13 (休園日)	14 (休園日) 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	15	16	17 Eコアッ作戦 13:00NC
18 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC Eコアッ13:00NC	19 (休園日)	20 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	21	22	23	24 巨木リサーチ(受 9:30NC
25 雑木林応援隊 9:00炭小屋	26 (休園日)	27 雑木林応援隊(畑) 13:00畑	28 会報発送 13:00NC	29	30	31

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (休園日):観察の森休園日

編集後記

あけましておめでとございませう。

春・夏・秋・冬、最近、一つひとつの季節が短く感じられ、一年があつとつ間に過ぎているようです。リタイア後は自分の好きなことばかりしているからかも知れませんが。先日モアヤマの仲間と雑談しました。「泥だらけになって、暑かったり、寒かったりする中でよくこんな作業するよね」「好きだからできるんだね」。本当に私たち「里山の会」は自然を愛する人たちの集まりと思えました。

話は変わりますが、皆さんは雲・霧・靄(もや)の区別はわかりますか。資料によりますと、雲と霧・靄は大気中の水分が飽和状態に達したもので非常に小さな水粒であり、基本的には同じものです。大気中に浮かんでいて地面に接していないものを雲、地面に接しているものを霧と定義しているようです。山に雲がかかっているとき地上にいる人を見ると雲だが、山中の雲の中にいる人には霧になります。また、霧と靄の違いは、視程が1km未満のものを霧、1km以上・10km未満のものは靄と呼ぶとのこと。

今頃の季節、天気が良く冷え込んだ朝、霧や煙がある一定の高さで横にたなびていることがあります。このような場所を「逆転層」と呼びます。大気中の気温はふつうなら高度の上昇に伴い温度が低下しますが、冬の寒い朝などは、放射冷却のため地上に近いほど温度が低くなります。そのため上に行くほど温度が上がります。地上で温度が下がります。大気の対流がなくなり霧や煙がたなびくこととなります。気温が低くなりますと風邪が多くなります。皆さん体調を整い寒い冬を乗り切りましょう。

(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2月号の印刷発送は1月28日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願ひいたします。